チケット料金

セット券／S席：15,000 円　A席：13,000 円　B席：11,000 円
チケット発売：6月8日（土）正午より（初日は電話のみ）
※セット券は電話または窓口でのみ販売します。

単独券：第１回・第２回／S席：5,000 円　A席：4,500 円　B席：4,000 円
第３回／S席：8,000 円　A席：7,000 円　B席：6,000 円
チケット発売：7月27日（土）正午より（初日は電話・WEB のみ）
※セット券が完売した場合、単独券の販売はございません。
※電話予約開始日にチケットが売り切れた場合、窓口での販売はありません。

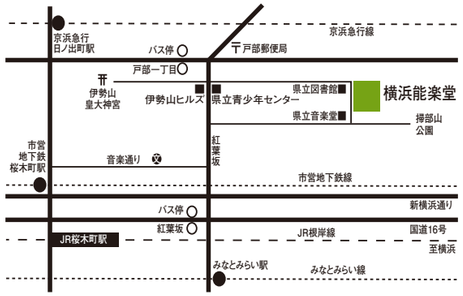
お申込み・お問合せ：横浜能楽堂　045－263－3055
〒220－0044　横浜市西区紅葉ヶ丘27－2
http://www.ynt.yaf.or.jp

横浜ベイホテル東急
フランス料理「クイーン・アリス」お食事付きチケットのご案内
［限定 24 名様］　Queen Alice

石鍋裕シェフがプロデュースするフランス料理の名店「クイーン・アリス」のお食事をお召し上がりいただいた後、横浜能楽堂にて公演鑑賞いただくチケットをご紹介します。横浜ベイホテル東急（旧パンパシフィック横浜ベイホテル東急）から横浜能楽堂までお車でお送りしますので、ゆっくりとお食事をお楽しみいただけます。公演鑑賞前に優雅なひとときをお過ごしください。

【開催日】　9月1日（日）「時々の花」　第1回
【料金】チケット代・お食事代・片道送迎代込み（税・サービス料込）
セット券　　S 席：18,900 円　A 席：16,900 円　B 席：14,900 円
第１回単独券　S 席：8,900 円　A 席：8,400 円　B 席：7,900 円

※セット券をお申込みの方もお食事・片道送迎は第1回のみとなります。　※友の会会員の方は、割り引きがございます。
※お食事付きプランは電話または窓口でのみ販売いたします。　※公演２週間前までの受付となります。［詳細については横浜能楽堂までお問い合わせください。］



交通のご案内
◇電車利用／ＪＲ根岸線・市営地下鉄線「桜木町」駅下車徒歩15分／みなとみらい線「みなとみらい」駅下車徒歩２０分／京浜急行「日ノ出町」駅下車徒歩18分（タクシー利用は各駅とも約5分）
◇バス利用／戸部1丁目（市営バス 103 系統）下車徒歩5分／紅葉坂（市営バス8、26、58、89、101、105、106 系統／神奈中バス横 43、横 44、港 61 系統／江ノ電バス大船駅行、栗木行／京急バス110系統）下車徒歩10分
※ 駐車場はございませんので、ご来場の際には電車・バスをご利用下さい。
※ 内容・出演者に変更がある場合がございます。あらかじめご了承下さい。
※ 客席への飲食物の持ち込みはご遠慮下さい。
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2
http://www.ynt.yaf.or.jp
tel:045-263-3055

主催：横浜能楽堂（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）　助成：芸術文化振興基金

世阿弥生誕 650 年記念　横浜能楽堂企画公演

時々の花

第1回　青春の巻　平成25年9月1日(日)
開場：午後1時　開演：午後2時
解説：馬場あき子
能「敦盛」（金剛流）金剛龍謹

第2回　朱夏の巻　平成25年10月26日(土)
開場：午後1時　開演：午後2時
解説：馬場あき子
能「井筒」（観世流）梅若紀彰

第3回　玄冬の巻　平成25年12月21日(土)
開場：午後1時　開演：午後2時
解説：馬場あき子
能「檜垣」（観世流）野村四郎

横浜能楽堂

世阿弥生誕 650 年記念　横浜能楽堂企画公演

時々の花

世阿弥といえば、すぐに「花」ということばを思い浮かべることだろう。日本最古の能楽論といわれる「風姿花伝」をはじめ、能の「花」について多くの芸論を著しているからだ。
「風姿花伝」において、世阿弥は、各年代において演者が「花」を発揮し続けるための心得を論じている。世阿弥生誕 650 年の記念の年にあたる 2013 年。各年代における「花」に焦点を当て、現在、時々の花を舞台で咲かせる若手・中堅・ベテランの演者により、世阿弥の作品の中から、その年代に演じることで最大限の魅力が発揮される曲を上演する。
また、毎回上演に先立ち、歌人の馬場あき子が「花」について解説。世阿弥が今日まで伝えようとした「花」とは何かに迫る。

金剛龍謹(シテ方金剛流)
1988年、二十六世金剛流宗家金剛永謹の長男として生まれ、時分の花を咲かせる真っ盛り。金剛流ならではの華やかさに加え、謹厳実直な舞台姿が魅力で、将来の能楽界を牽引する存在として期待される。

梅若紀彰(シテ方観世流)
1956年、五十五世梅若六郎の孫として生まれる。近年は「姨捨」など能の大曲を演じ、高い評価を得る一方、他ジャンルとの共演も多く、多彩な活躍を見せる。2010年、次期梅若家当主として二代梅若紀彰を襲名。名実ともに次代を担う存在となり、真の花を咲かせている。

野村四郎(シテ方観世流)
1936年、六世野村万蔵の四男として生まれる。現在までに「三老女」を含め、老女物を完演。観世流のみならず、能楽界の重鎮として確固たる地位を築き、至上の舞台を見せる一方、現在でも、異分野との共演など、新たな挑戦を続け、その花は輝きを増すばかりである。

馬場あき子
歌人。歌誌「かりん」主宰。「朝日歌壇」選者。新作能に「小野浮舟」「影媛」。著書に「馬場あき子全集」「能・よみがえる情念」「日本の恋の歌」等多数。

能「敦盛」は、「平家物語」を題材に、笛を愛し、１６歳で散った美少年・敦盛を主人公とした修羅能。世阿弥は、能作書「三道」で「近来押し出して見えつる世上の風体(近年世間で好評を博している能)」として「敦盛」を挙げており、自信作であったと考えられる。自演のためでなく、息子たちに演じさせるために作ったとの説もあり、若手が演じるに相応しい能であるが、後場の舞には風雅さが要求され、相当の技量も伴わなければ演じきることは難しい。

第１回　青春の巻

平成 25 年 9 月 1 日（日）午後 2 時開演

解説　馬場あき子

能　「敦盛」（金剛流）

シテ（草刈男・平敦盛）	金剛　龍謹
ツレ（草刈男）	廣田　泰能
ツレ（草刈男）	豊嶋　晃嗣
ツレ（草刈男）	宇髙　徳成
ワキ（蓮生法師）	有松　遼一
アイ（所の者）	善竹　隆司
笛　：	竹市　　学
小鼓：	成田　達志
大鼓：	國川　　純
後見：	金剛　永謹　廣田　幸稔　豊嶋　幸洋
地謡：	松野　恭憲　今井　清隆
	種田　道一　今井　克紀
	宇髙　竜成　坂本立津朗
	山田　夏樹　惣明　貞助

能「井筒」は、「伊勢物語」の二十三段を中心に十七段、二十四段を紀有常の娘と在原業平の一連の恋物語とする、中世に流布した「伊勢物語」の解釈に基づいて作られた夢幻能。業平を一途に待ち続ける女の恋慕の情が秋の月夜を舞台に、美しく描かれており、世阿弥も自身の芸談書「申楽談義」で「井筒　上花なり」と、高い評価を与えている鬘物の傑作である。

第２回　朱夏の巻

平成 25 年 10 月 26 日（土）午後 2 時開演

解説　馬場あき子

能　「井筒」（観世流）

シテ (里女・紀有常女の霊)	梅若　紀彰
ワキ (旅僧)	工藤　和哉
アイ（里人）	山本泰太郎
笛　：	松田　弘之
小鼓：	横山　晴明
大鼓：	亀井　広忠
後見：	梅若長左衛門　山中　迓晶
地謡：	梅若　玄祥　山崎　正道
	小田切康陽　角当　直隆
	松山　隆之　川口　晃平
	土田　英貴　内藤　幸雄

能「檜垣」は、「後撰集」や「大和物語」に見られる檜垣の媼を題材とし、「姨捨」「関寺小町」と並ぶ能の最奥位とされる「三老女」の一曲。中でも本曲は、老いの哀しみだけでなく、若き日に美貌の白拍子として持て囃されたことにより、死後、猛火の釣瓶で水を汲み続ける地獄の苦しみを受けるという檜垣の女の業の深さが硬質で簡潔な文体で描かれ、世阿弥の能作の秀逸さが堪能できる作品である。

第３回　玄冬の巻

平成 25 年 12 月 21 日（土）午後 2 時開演

解説　馬場あき子

能　「檜垣」（観世流）

シテ (老女・檜垣女)	野村　四郎
ワキ (山僧)	宝生　　閑
アイ（岩戸山麓の者）	山本東次郎
笛　：	一噌　仙幸
小鼓：	大倉源次郎
大鼓：	柿原　崇志
後見：	浅見　真州　清水　寛二　浅見　慈一
地謡：	観世銕之丞　浅井　文義
	上野　朝義　西村　高夫
	上野　雄三　小早川　修
	柴田　　稔　野村　昌司